

氣迫
氣魄

堅田高等学校
虎姫高等学校

堅田高等学校の部旗には「氣迫」の2文字、虎姫高等学校の部旗には「氣魄」の2文字が染め抜かれています。

広辞苑で「きはく」と引いてみると漢字は【氣迫・氣魄】と併記され、意味は「何ものにも屈せず立ち向かっていく強い精神力。氣概。」とあります。したがって、基本的には両校の部旗の文字は同じ意味であると思います。

しかし、今、せっかく部旗について学んでいますので、両校の使われている漢字の違いに伴う微妙なニュアンスの違いに注目しながら考察してみたいと思います。

まず、「氣」は「氣」の略字ですので意味の違いはありません。

「氣」というものは目に見えないので説明が難しいのですが、漢字源という辞典に「氣」という文字の成り立ちを『「いき」という意味の気と米が重ねられていて「米をふかすときに出る蒸気」のことを示す』と説明しています。米は私たちの主食、つまり命の源ですので「氣」は「命のエッセンス」「命のこもった力や勢い」というように解釈できるのではないのでしょうか。「氣」というものはこのように大切なものですので、「氣劍体一致」という剣道の有効打突の条件の第一番目に挙げられる理由も肯けるように思います。

次に「迫」と「魄」の違いについて考えてみます。

「迫」という文字は「せまる」と訓読しますので、勢いをもって距離が近づいていくという感じが強く感じられます。したがって堅田高校の場合には「勢いよく迫りながら相手を圧倒していこうとする精神力」というように、動きのある「氣迫」というイメージが思い浮かびます。この部旗は長年堅田高校の剣道部を指導されている仮屋達彦先生が、書道を教えておられた奥村守男先生に揮毫を依頼され作られたと聞き及んでいます。

部員一人ひとりの心に迫りながら、迫力のある剣道をする選手を数多く育ててこられた仮屋先生の指導方針そのものを見るように思います。

一方「魄」という文字は「たましい」と訓読し、「精神を司るたましい」である「魂」に対して、「魄」は「肉体を主宰するたましい」と説明されます。かつて虎姫高校の試合用胴には「魂」の文字が書かれていましたので、顧問をしておられた北村幾太郎先生が「魄」の文字を選ばれ、自ら筆を執られてこの部旗を作られたと聞き及んでいます。

虎姫高校の「氣魄」の場合は、「体全体にみなぎるたましいのこもった気合い」という意味になるように思い、虎姫高校の剣道部のなかで語り継がれてきた、秘めたる闘志というものがこの言葉にこめられているように思います。

「動の氣迫」と「静の氣魄」という風に私は受け止めたのですが、いずれにしても大変厳しい言葉です。両校の剣道部員の諸君は、それぞれの部旗に励まされながら、強い精神力を身につけることを目指して日頃の鍛錬をしていることと思います。

【参考】「広辞苑」(岩波書店)、「大漢和辞典」(大修館書店)、「漢字源」(学習研究社)